

飯田家出身の偉人たち。

長野県境に位置する菱ヶ岳連山を源に発する保倉川は、昔から地域住民の生活に深くかかわってきました。この保倉川水源活用から発想し、社会貢献のため先進的の事業を展開したお二人を紹介します。



大正9年保倉川電気株式会社を設立
葛蒲発電所をつくる

飯田 茂勝 Iida Shigekatsu
13代目(明治9年～昭和19年)

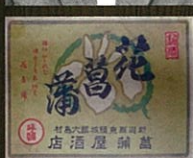
保倉川電気(株)は、飯田茂勝氏ら3氏を中心となり設立した水力発電会社です。夏の渇水期には、水量不足から電圧が下がって“蛍川電気”と揶揄されることもありましたが、東頸城の地にこんなに速く電気が灯ったのは、初代社長の飯田氏を含む郷土の先駆者の力があってからこそです。



合成清酒研究に
一生を捧げた

飯田 茂次 Iida Shigeji
14代目(明治36年～昭和60年)

飯田家は、明治初期から昭和13年頃まで「花葛蒲」の銘柄で、年間50石の清酒を醸造していました。実家での酒造りから醸造学への道に進み、昭和33年には合成清酒研究で「農学博士」号を取得。更には『合成清酒の研究及びその業界への貢献』で、昭和35年11月に紫綬褒章を受章されています。



国登録有形文化財

飯田邸(旧飯田家住宅主屋一棟)は、平成26年4月25日に国の登録有形文化財に登録されました。地元では、この歴史的建造物である飯田邸を大島区葛蒲地区の宝として後世に継承し、地区のシンボルとして活用しようと、飯田邸保存会を中心に各種事業に取り組んでいます。茅葺き屋根の葺き替えなどを順次行うことにしています。



案内図 Access Map



アクセス

- 北越急行-ほくほく線
「ほくほく大島駅」より車で10分
- 上越市営路線バス
「葛蒲センター前」下車すぐ
- 北陸自動車道「柿崎IC」より50分
- 関越自動車道「六日町IC」より70分



そばとガレットの古民家カフェ。
いいたていかふえ
そばとガレット、ドリンクなどを
数量限定でおもてなし致します。
営業時間：金曜日11:00～16:00
(夏期) 土曜日11:00～16:00
営業日・お問い合わせ
(農)葛蒲生産組合
TEL・FAX.025-594-7888

葛蒲地区振興協議会・飯田邸保存会
〒942-1216 新潟県上越市大島区葛蒲895番地1
TEL・FAX.025-594-7888

このパンフレットは、上越市地域活動支援事業を活用し作成しています。

飯田邸

国登録有形文化財



古民家 飯田邸



現存の飯田邸は、江戸中期に火災に遭い再建したもので、嘉永6年(1853年)の建築といわれています。豪雪地の茅葺き屋根の民家としては、平屋建てで規模が大きく、越後地方に特徴的な中門造りとなっています。

座敷



飯田家は庄屋としての役以外に、留番所の役割を兼ねていました。藩領や直轄領であった菖蒲地区の担当地方官を持って成したとされる座敷の周囲には、お供の者が控えていたとされる入側(縁座敷)が間取りとして設けられています。

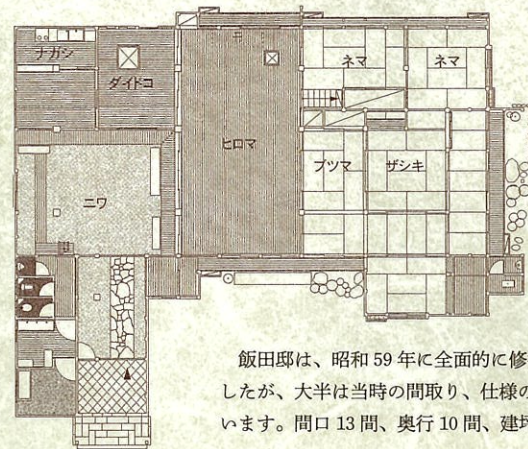
広間



構造部材の梁や柱には、檜が使用されています。大きな梁と柱、小屋組みなどの構造、また規模的にも再建築をするにはかなり難しく、希少性が高いと考えられています。この広間では、「ふみ子の海」などの映画撮影が行われています。

地域に貢献した飯田家。
新田の開発から
酒造業、発電事業へ。

飯田家は寛文年間(一六六一年)以降既に庄屋を世襲し、菖蒲一帯の取りまとめ役にあつた家柄といえます。古くから山林を含めての大地主であり醸造元も文化十三年(一八一六年)には既に兼営していたという記録が残されています。また、この地は信濃白鳥に通じる峠道による人物流交通の要衝地域でもありました。



飯田邸 主屋の構造

飯田邸は、昭和59年に全面的に修復が行われましたが、大半は当時の間取り、仕様のまま残されています。間口13間、奥行10間、建坪は約100坪。

書院造り(しよいんづくり)

座敷には、長押や天袋、違い棚付きの床脇と床の間、その間に見られる狝潜り(ちんくぐり)、更には付書院といった座敷飾りが取り付けられています。



庭園

